



# 虹のかけ橋

第27号/平成21年1月



〈しめ縄づくり〉



〈スケートに挑戦〉



〈七宝焼き〉



〈クリスマスリース〉



〈ひょうたんを使った案山子〉

## 体験活動を終えた児童から うれしいおたよりをいただきました

最初、とても緊張していたけど、ちょっとしたらなれてきて楽しかったです。1日目、お風呂に入るととても気持ち良かったです。お湯がず～と出ていたのでびっくりしました。2日目のサイクリングの時は、ずっと乗っていなかっただけ、スタッフの人たちが支えてくれたのでちゃんと乗れました。やまびこのご飯はとってもおいしくてびっくりしました。3日目の「服にペインティング」では、とってもいいのができました。服に「だいばくはつ」と書いたのに、みんなは「いくつだばは」と読んでいたので笑ってしまいそうでした。スポーツで野球をした時、初めてピッチャーをしました。ピッチャーをした後、スタッフやみんなが「上手だったよ」と言ってくれたのがうれしかったです。4日目の山登りは、スタッフが支えてくれたので上まで登りきれました。滝の近くまで行った時、とても気持ち良かったです。最終日、みんなに会えなくなるのでさびしくなってきました。けど、スタッフやみんなとバイバイしたのでうれしかったです。また、やまびこに行きたいです。

(小学校6年女子)

兵庫県立 但馬やまびこの郷  
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~yamabiko-bo/>

## 不登校に関する研修会

「不登校の子どもと家庭にどうかかわるか」をテーマに県下5会場で実施しました。

本研修では、講義の後、演習で「家庭と学校をどうつなぐか」について話し合いました。

平成19年度学校基本調査によると、兵庫県では、不登校になったきっかけとして、「親子関係をめぐる問題」（小学校27.0%、中学校9.6%）「家庭の生活環境の急激な変化」（小学校11.2%、中学校11.2%）と家庭生活に起因する割合が高くなっています。

また、学校が家庭に対して、家族関係や家庭生活の改善を図ろうとするものの、保護者の協力を得ることがなかなか難しいという話もよく聞きます。

今後、学校においては、児童生徒本人のみならず保護者への適切な働きかけや支援を行うことが求められます。

古川雅文先生（兵庫教育大学大学院教授）は、子どもが不登校に陥ったときの保護者に共通した心理として、「驚きととまどい。まさかわが子が…」「学校への反感、批判、失望」「子どもの将来への不安」「自責感・罪悪感」「家庭関係のほころび」「世間体へのとらわれ」等を挙げられました。

こうした保護者への対応として、本研修会の講義内容から、一部を紹介します。



### 保護者面接のポイント(古川雅文先生)

- ・合わせる
- ・保護者の感じている問題を確認し、ニーズを見立てる
- ・問題ではなく、ゴールについて質問する
- ・特定の人に原因を帰さない
- ・子どものリソース（得意なこと、援助者、利用できる施設等）を見つける
- ・子どもの良い変化を見つける
- ・課題を出す

### 保護者とのコミュニケーションのとり方(丹羽洋子先生)

- ・対等な関係を築く（教師は教育の専門家として、保護者は養育の専門家として）
- ・保護者の援助をする（保護者のニーズを見つける）
- ・保護者を悪者にしない
- ・未来的志向で考える（今、何ができるのか、どう協力できるのかを考える）

### 家庭での子どもへの対応(杉村省吾所長)

- ・あきらめては駄目。子どもは、環境の中で変わっていく
- ・長所や短所はあるのだから、長所を使って短所を補うことを考える
- ・『聞く、待つ、寄り添う、合わせる、教える、ほめる』が基本的スタンスである

# 但馬やまびこの郷サテライト事業



平成19年度より2年間、文部科学省委託事業「問題を抱える子ども等の自立支援事業」として、不登校の未然防止、早期発見・早期対応の在り方や、関係機関とのネットワークを活用した早期支援の在り方について調査研究を行ってきました。

今、不登校となるきっかけや継続している理由も多様化しています。そこで、不登校対策を一層進めていくためには、不登校の要因を踏まえた上で、不登校を出さない取組や不登校が長期化する前の段階、小学校段階での早期の取組を充実させることが重要です。



## 不登校の要因について

昨年度、「不登校の未然防止、早期発見・早期対応の取組」に関するアンケート調査を県内の小・中学校115校を対象に実施し、不登校の要因や学校の取組の状況を分析し傾向等を把握しました。

特に不登校の要因については、「本人に関する要因」「家庭生活に関する要因」「学校生活に関する要因」「その他の要因」の4つに分け、その状況をまとめた結果、それぞれの傾向が分かりました。

	小学校	中学校
本人	(1) 慵懶、無気力	(1) 慵懶、無気力
	(2) 頭痛、腹痛などの身体症状	(2) 学校に行かなければならない義務感
	(3) 学校に行かなければならない義務感	(3) 耐性が弱い
家庭生活	(1) 精神的、経済的なゆとりがない	(1) 親子関係希薄
	(2) 家庭の教育力の低下	(2) 精神的、経済的なゆとりがない
	(3) 親子関係希薄	(3) 家庭の教育力の低下
学校生活	(1) 友人がいない、孤立	(1) 友人関係
	(2) 友人関係	(2) 学業不振
	(3) 学業不振	(3) 友人がいない、孤立
その他	(1) 社会体験の不足	(1) 社会体験の不足
	(2) 地域の不登校支援機関が少ない	(2) 地域の非行集団の影響
	(3) 地域の不登校への理解	(3) 地域の不登校支援機関が少ない

## 不登校対応資料「不登校の未然防止、早期発見・早期対応の在り方について」

本年度は、これらのアンケート調査の結果をもとに、本事業の報告書として不登校対応資料を作成しています。資料は、次のように構成しています。

- ① 事例…不登校の要因を踏まえた実際の事例を記載する
  - ② 支援の方針…事例について、支援の大まかな方向性を示す
  - ③ 具体的な対応…本人への働きかけ、家庭への働きかけ、友人への働きかけ、その他（関係機関等）への働きかけ等について具体策を示す
  - ④ その他の取組例…アンケート調査の回答から効果的な取組例を紹介する
- 事例集以外にも、不登校の未然防止や早期発見のチェックリスト等を記載しています。年度末には各学校に送付する予定ですので、ぜひご活用ください。

# ～心も体もリフレッシュ～

## 宿泊体験活動を振り返って

毎週金曜日に行う「お別れ会」で

子どもたちは次のような感想を残しています。



4泊5日も家を離れられるか心配だったけど、不安を忘れるほど楽しかった。

今まであまり自信がなかったけど、活動ではめでもらつて自信がついた。

夢のような4泊5日だった。学校に行こうと思った。

いっぱい話せたし、楽しく活動でき、ストレスが発散できた。友だちがたくさんできた。

### お別れ会での言葉 <児童生徒>



スポーツでみんな体を動かしたのは久しぶりだった。満足した。

## 担任の先生から

但馬やまびこの郷を利用した生徒の担任の先生からも、生徒が「前向きな気持ちになった」と、うれしいおたよりをいただきました。その一部をご紹介します。

先日は、A君が5日間お世話になり心より感謝しています。今回の入所体験で、特に私がうれしかったのが、彼が苦手なスポーツに「挑戦」したということです。

A君は、スポーツに限らず自分にとって少しハードルが高いと感じることには、気持ちがひいてしまう傾向が強いだけに、苦手なことや困難なことに「挑戦」できたことは、今回の大きな収穫だと感じています。このことには本人も満足したようで、学校でその話をするときは、表情も大変明るかったです。

A君にとって何よりこの「挑戦」する気持ちが、これから進路決定には欠かすことができません。早速、年明けには親子で、高校見学をすることも決まりました。ゆっくりですが、未来へ向かう一歩を踏み出しました。今後とも、ご支援よろしくお願ひします。

平成19年度の利用者追跡調査によると、右のように、当所の利用前・利用後で登校状況に変化が見られます。また、本人の様子についても「明るくなった」「生活が規則正しくなった」「学習意欲が高まった」等の結果が出ています。

豊かな自然に恵まれた但馬やまびこの郷で、自然とふれあい、仲間と楽しく活動することにより、心も体もリフレッシュできます。

今後も、当所の利用が児童生徒の前向きな気持ちを高め、再登校に結びつくことを願っています。

### 利用による登校状況の変化

(平成19年度利用者追跡調査より)

